

夏作飼料作において問題になる帰化雑草の 「発生実態調査報告書」

これまで国内の夏作飼料作では、機械防除（耕耘）と化学防除（除草剤散布）の組み合わせで雑草防除は可能とされてきました。しかし輸入飼料への種子混入などを原因として海外から侵入した「帰化雑草」の中には、従来の薬剤が効かずトウモロコシなどの飼料畑で蔓延し被害が報告されているものもあります。雑草対策の第一歩は、畑でどのような雑草が問題になっているかを認識し、その生態を把握することにあります。そこで各地域の飼料畑において、現在どのような帰化雑草が発生しているのか実態を調査し、生産現場で役立てるため「夏作飼料作物における帰化雑草の発生実態調査報告書」にまとめインターネット上で公開しました。

☆ 技術の概要

1. 近年、新たに発生と被害が報告され始めている帰化雑草について、各県に問い合わせ調査を行いました。その結果、ワルナスビ、アレチウリやオオブタクサが飼料畑で問題になっていることが明らかになりました（写真①～⑤）。



- ①飼料畑のワルナスビ
- ②道路畔に繁茂したワルナスビ群落
- ③トウモロコシ畑のアレチウリ
- ④トウモロコシ畑のオオブタクサ
- ⑤大型化したオオブタクサ

2. 問題となる帰化雑草の中でも、特にワルナスビはロータリ耕などで切断された根片から再生してトウモロコシ畑一面に広がるため、防除が難しいことが報告されています。
3. 防除に役立てるため帰化雑草の発生動向と生態をまとめ、また国内外の調査報告等から想定される防除方法を集め報告書に紹介しています。この報告書はインターネットから閲覧することが可能です。

☆ 活用面での留意点

1. まとめられた詳しい内容は「夏作飼料作物における帰化雑草の発生実態調査報告書」（2013年 畜産草地研究所技術レポート13号）を参照してください [以下の URL]

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/nilgs_report_13.pdf

2. 詳細については、畜産草地研究所・情報広報課（電話：029-838-8611、問い合わせフォーム <https://www.naro.affrc.go.jp/nilgs/inquiry/tech.html>）にお問合せください。

（独）農研機構 畜産草地研究所 飼料作物研究領域 森田 聡一郎